

徳島県美馬市・神山町における地方創生に向けた交通の取組

1. はじめに

国土交通省総合政策局総務課では、地方自治体が取り組む交通政策の成功事例を調査し、知見・ノウハウの整理・共有化に取り組んでいるところであるが、地方創生を支える総合交通体系のあり方を検討する一環として、徳島県美馬市及び神山町における事例調査を実施した。

美馬市では、デマンドバス、市営バス、過疎地有償運送等の交通サービスが提供され、高齢者のみならず、高校生や観光客のニーズへの対応にも取り組んでいる。また、中山間地域の木屋平地区では、中学校跡地を利用した「小さな拠点」づくりにも取り組んでいる。

神山町では、移住促進に係わる取組の一環として、平成22年から町内の古民家を都市のICT企業等に貸し出す「サテライトオフィスプロジェクト」を開始した。この取組を担うNPO法人グリーンバレーは、サテライトオフィスの社員に対する生活支援や、地域での受け入れ体制の構築等の活動を行っている。

本調査においては、美馬市及び神山町の行政機関やNPO法人に対するヒアリング調査と現地視察を行い、交通施策と移動支援に関する各種取組を調査した。



図 美馬市および神山町の位置

2. 美馬市における交通施策

2-1 美馬市の概要

美馬市は徳島県西部（県都徳島市から約40km）に位置し、平成17年3月に美馬郡内の3町1村が新設合併、市制施行して誕生した。平成27年9月30日現在の人口は30,957人である。

市のほぼ中央を東西に四国三郎「吉野川」が流れ、その沿岸の平野部が主な可住地となっている。総面積の約8割が森林であり、西日本で2番目に高い剣山（標高1,955m）など南北を山地で囲まれている。

中心部の脇町は、主要街道の撫養街道と讃岐への街道が交差する交通の要衝であり、さらに吉野川に面するため舟運の利用にも適した位置にあったことから、商人の町として栄え、現在も「うだつの町並み」として、当時の街並みが残され、現在は観光資源の1つとなっている。



図 うだつの町並み



図 剣山（つるぎさん）

2-2 美馬市における交通に係る取組

市の東西を JR 徳島線が走り、徳島市方面等への広域交通を担っている。市内の多くのバス路線は廃止され、デマンドバス「美馬ふれあいバス」が木屋平地区を除く市域をカバーしている。木屋平地区は中心部と市営バス「穴吹-木屋平線」で結ばれ、地元 NPO 法人による過疎地有償運送が行われている。

また、剣山へのアクセスとして、市営バス「滝の宮-剣山線」があり、季節により臨時運行されている。

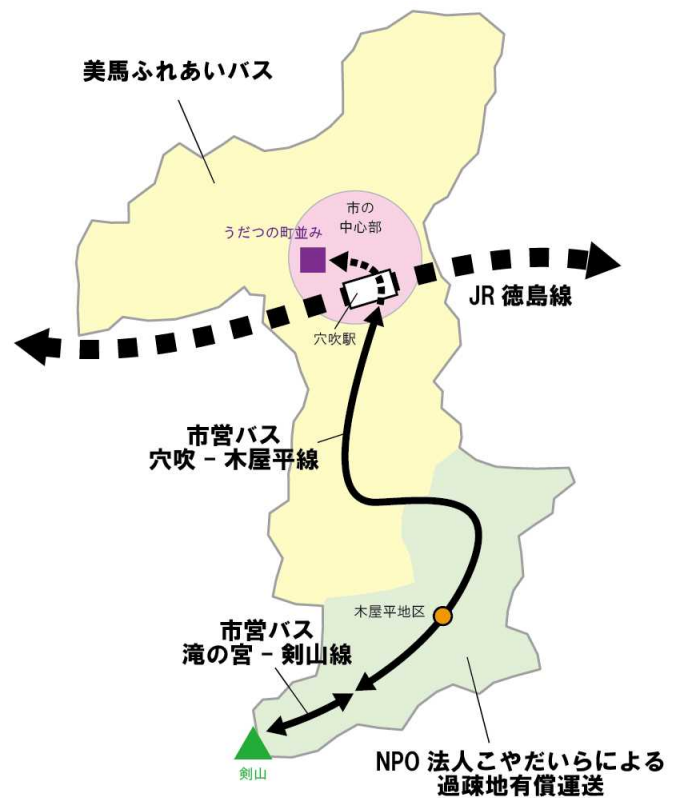


図 美馬市の地域交通体系

①デマンドバス「美馬ふれあいバス」

市営バスの廃止（一部を除く）に伴い、デマンドバス「美馬ふれあいバス」が平成23年6月からの試験運行を経て、平成25年10月から本格運行を開始した。「美馬ふれあいバス」は、美馬市内（木屋平地区を除く）と貞光駅（隣のつるぎ町）を運行エリアとし、平日に7便運行されている。利用者は会員登録の上、利用の1時間前までに予約をすることで、ドア to ドアの送迎が受けられる。第1便を高校生優先とすることや通学定期乗車券の発行など高校生の通学に配慮した運行も行っている。



図 美馬ふれあいバス

運行開始以降、利便性を高めるための運行見直しも行っており、利用者は増加している（H23：約16.3人/日 → H24：約40.6人/日 → H25：約51.4人/日 → H26：約57.5人/日）。

<運行見直し内容>

	当初内容	変更内容等
利用日 拡大	各地区を5ブロックに分割し、1日毎に運行 ⇒ 週に1回の利用	1ブロックに変更（5ブロックから1ブロックに段階的に移行）（H23.8～H24.8） ⇒ 毎日利用可
利用区間の 制限緩和	目的地：自宅→病院、商店、公共施設、駅、金融機関	・目的地間利用も可能に（H25.6）
便数増大	1日6便	午後5時便を7便目として追加し、2便目以降の時刻表も変更
予約期限の 延長	予約：前日の営業日の午後4時まで	1・2便目を除き、3便目から当日の利用時間1時間前まで（H23.10）
料金 見直し	料金：一般 500円、高校生以下 300円、障害者手帳をお持ちの方 450円	・障害者手帳をお持ちの方 300円（H24.2） ・運転免許証を自主返納した方 300円（H24.2） ・目的地間利用 300円（H25.6）
定期券・ 回数券の導入	（定期券・回数券なし）	・高校生の朝の通学定期乗車券（1か月分）3,000円（H25.9） ・回数乗車券（11枚綴り）5,000円（H25.10）

②市営バス

穴吹一木屋平線は、市町村合併前は木屋平村営バスとして運行されていた木屋平地区とJR徳島線・穴吹駅を結ぶ路線バスである。1日4便が運行されており、穴吹駅において、徳島市方面に向かう鉄道との乗り継ぎが可能なダイヤとなっている。平成27年6月1日からは、起終点を穴吹駅から道の駅うだつまで延伸する試験運行を行っている。木屋平地区から市の中心部・脇町まで乗り換えなしでのアクセスが可能になるとともに、鉄道を利用する観光客のうだつの町並みへのアクセスの利便性も高まる。

滝の宮一剣山線は、上記穴吹一木屋平線との接続により穴吹駅から剣山の登山口（三好市・見ノ越）までを結ぶ路線である。春夏・紅葉時期に臨時運行され、剣山方面への観光客の足となっている。

③ 「NPO 法人こやだいら」による過疎地有償運送

市南部に位置する木屋平地区では、NPO 法人こやだいらによる過疎地有償運送が行われている。この取組は、旧木屋平村で実施されていた週1回の移動サービスが合併後に廃止されたことをきっかけに始まったものである。移動サービスの廃止を受け、木屋平地区では、木屋平地域有償ボランティア検討委員会を立ち上げ、意見交換会や組織づくりが行われた。その結果、平成19年12月に地域住民220名が会員となった「NPO 法人こやだいら」が設立され、交通手段を持たない高齢者を同じ地域の住民が送迎する過疎地有償運送が実現した。運営の仕組みは、利用の3日前までに予約を受け付け、45人いる登録運転手から担当者が割り当てられるようになっている。利用料金（130円/km）は85%を運転手に、残りはNPO法人の運営費に充てられている。

NPO 法人こやだいらは、過疎地有償運送のみならず、高齢者生活支援（安否確認、生活相談等）等も行うなど地域の様々な課題の解決に取り組んでいる。設立当初から会員も増加傾向にあり、過疎地有償運送の利用者も増加している。

木屋平地区は集落が点在し、市営バスのバス停まで距離が遠い住民もいるため、過疎地有償運送の利用者には、病院・診療所や買物の送迎の他に、自宅からバス停までの区間を利用する人も多い。また、シニアカーの利用者も多く、NPO 法人こやだいらと警察やメーカーが連携して、安全運転講習会も定期的に行われている。

木屋平地区では、旧木屋平中学校の跡地に、行政、買物、医療等の日常生活サービス機能を集約した小さな拠点の整備が進められている。小さな拠点が整備できれば、目的地が1箇所となり、過疎地有償運送も効率的になるとの声も聞かれた。



図 過疎地有償運送



図 シニアカー安全運転講習会

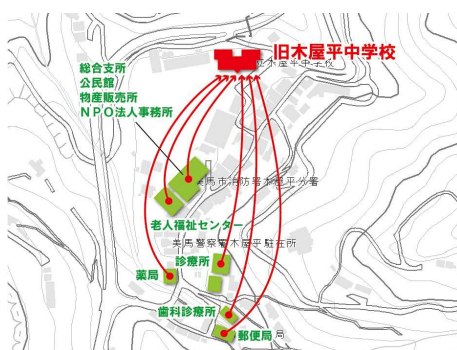


図 小さな拠点のイメージ



図 小さな拠点として整備される
旧木屋平中学校

3. 神山町における移住促進やサテライトオフィス誘致に係わる交通施策

3-1 神山町の概要

神山町は、徳島県東部の名西郡（神山町・石井町）に属し、町内の東側（広野地区）は県都徳島市、石井町と接しており、神山町役場から徳島市役所とは車で約45分の位置にある。

鮎喰川流域に集落や農地が点在し、その周りを町域の約8割を占める山間地が囲んでいる。人口は一貫して減少傾向が続いており、平成27年10月1日現在の人口は5,843人である。また、高齢化率は平成27年で51.2%であり、徳島県の高齢化率31.3%と比べても高い状況にある。

3-2 神山サテライトオフィスの概要

徳島県は全国でも有数の高速ブロードバンド環境を整備しており、これらを活かして都市部のICT企業等を対象に「とくしまサテライトオフィスプロジェクト」を展開してきた。

県内には、現時点で5市町村に31社が進出しており、このうち神山サテライトオフィスには12社が進出している。単なる企業誘致にとどまらず、移住促進や地域の再生も視野に入れた取組として、近年では各種メディアに取り上げられるなど注目を集めている。

神山町においては、サテライトオフィスの誘致や移住促進に係わる取組を、主にNPO法人グリーンバレーが担っている。



図 神山サテライトオフィスに進出した企業のオフィス



図 神山バレー・サテライトオフィス・コンプレックスのオフィス内部（左）と同施設の隣に新設された宿泊施設「WEEK 神山」（右）

3-3 神山町の交通状況と交通施策

神山町は町域の約8割が山間地であり、町民の主な移動手段は自動車である。

公共交通としては、徳島バスが神山高校前～徳島駅間で4系統の路線バスを運行しているが、路線バスの利用者のほとんどが通学の高校生であり一般の利用客は少ない。

また、路線バスが運行していない神山高校前停留所以西の山間地のエリアについては、神山町営バスが3路線運行している。

自動車を運転できない高齢者や児童等については、通学や買い物・通院のための移動手段確保が問題となっており、神山町では、その対応として町営バスの運行等のほか、バスやタクシー利用に対する助成等の交通施策を実施している。

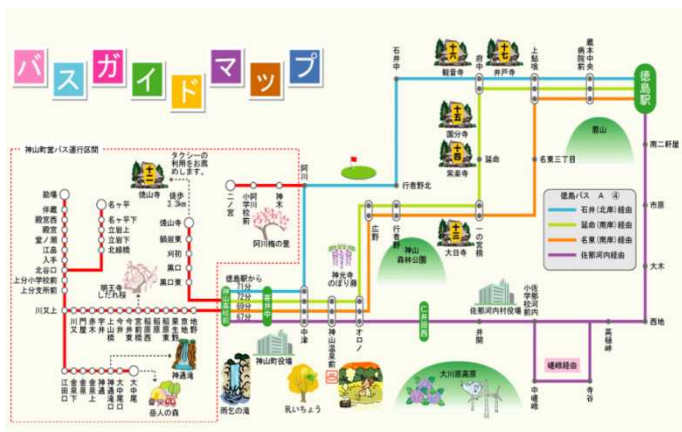


図 神山町のバス路線

① スクールバスの運行

神山町には小学校・中学校が各2校あり、遠距離通学となる児童等の通学手段を確保するために通学用のスクールバスを運行している。

② 神山町営バスの運行

町内で路線バス（徳島バス）が運行していないエリアについて、神山町営バスを3路線運行している。

町営バスは、スクールバスが運行しない時間帯に同じ車両を利用して運行しており、各路線を一日に約3便程度が往復している。料金は120～540円である。町営バスの運行に対する町の財政的負担は大きいものの現状では利用者は少ない。

③ 高齢者等のタクシー利用助成（愛称：のらんでサービス）

高齢者や障害者等の外出を支援し、日常生活の利便性及び福祉の向上を図ることを目的として、タクシー利用助成券の販売を行っている。

助成内容は、一定の条件を満たす高齢者や障害者について、1冊12枚つづりの助成券（1冊1,000円）を年間3冊までを限度に購入できる。助成額は1回の利用につき2,000円を上限とし、町内のタクシー事業者を利用することが条件となる。

神山町内ではバス停と住居との高低差が大きい箇所があり、自宅まで送迎してもらえるタクシーは利便性が高いことから、利用者からは概ね好評を得ている。

④ バス定期券の購入に対する助成

町内に居住する高齢者や高校生がバス定期券を購入する場合に費用の一部を助成している。

3-4 サテライトオフィスに係わる交通手段確保のための取組

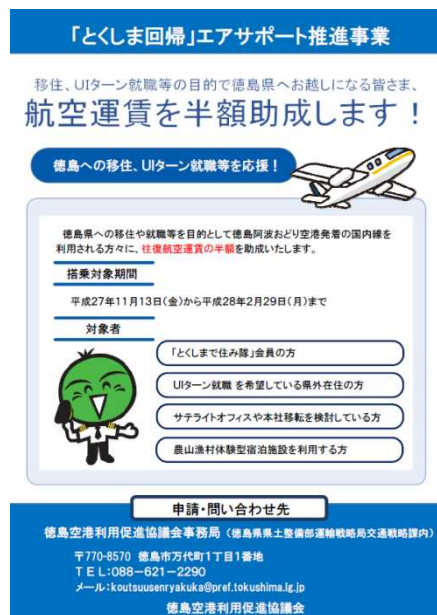
①航空運賃の割引に関する取組

サテライトオフィスは、東京等の大都市に拠点を持つ企業
がその機能のバックアップや開発拠点として使用するため、
徳島県との間に頻繁に企業関係者の往来が発生する。

徳島阿波おどり空港～羽田空港間の航空運賃は、通常料金
では往復で6万円以上かかることから、誘致にあたっては移
動に係る企業の負担増加が懸念された。

このため、プロジェクト初動期には徳島県が航空会社に働
きかけ、パック旅行という形態で既存の料金体系システムを
壊さない範囲内で航空運賃の値下げをしてもらった取組を行
った。

取組当初は、徳島県からの補助を行っていなかったが、平
成27年11月より『「とくしま回帰」エアサポート推進事業』
として、移住希望者やサテライトオフィス開設を検討してい
る企業等を対象として、往復航空運賃の半額を助成する事業
を開始している。



「とくしま回帰」エアサポート推進事業

移住、Uターン就職等の目的で徳島県へお越しになる皆さま、
航空運賃を半額助成します！

徳島への移住、Uターン就職等を応援！

徳島県への移住や就職等を目的として徳島阿波おどり空港発着の国内線を利用される方々に、往復航空運賃の半額を助成いたします。

搭乗対象期間
平成27年11月13日(金)から平成28年2月29日(月)まで

対象者

- 「とくしま住み隊」会員の方
- Uターン就職を希望している県外在住の方
- サテライトオフィスや本社移転を検討している方
- 農山漁村体験型宿泊施設を利用する方

申請・問い合わせ先
徳島空港利用促進協議会事務局 (徳島県土整備部運輸戦略局交通戦略課内)
〒770-8570 徳島市万代町1丁目1番地
TEL:088-621-2290
メール:koutsusenryaku@pref.tokushima.lg.jp
徳島空港利用促進協議会

図 「とくしま回帰」エアサポート

②カーシェアリングによる移動手段確保の取組

サテライトオフィス進出企業におけるカーシェアリングは、徳島阿波おどり空港からサテライ
トオフィス間の移動手段を確保するための取組として始まった。

プロジェクト初動期には、サテライトオフィス支援のために、県の関係者が車を貸し出す等の
対応を行っていたが、その後、進出企業から自動車を協同利用するアイデアが出された。現在は、
県内のサテライトオフィス進出企業の協力により提供された社用車5台を、徳島阿波おどり空港
の空港ビル会社に配置して運用している。

予約等の管理はNPO 法人グリーンバレーが行っており、利用状況は徳島県内のサテライトオフ
イス全体で1日に約2台程度が利用されている。利用するのはサテライトオフィスの関係者に限
られるが、神山町のサテライトオフィス関係者や移住者からは、主に町内の移動手段として、一
般の人も利用可能なカーシェアリングを期待する意見もみられる。

③自動車の相乗りをマッチングするアプリの開発

現時点では本格的な運用はされていないが、サテライトオフィス関係者により知人同士で相乗
りを希望する人と自動車を運転する人をマッチングするアプリの製作が試みられている。

4. 考察

○美馬市の取組を踏まえた考察

✓多様なモードの連携の必要性

美馬市内では、鉄道、市営バス、デマンドバス、過疎地有償運送さらにシニアカーなどにより地域の移動手段が確保されている。持続的に地域のモビリティを確保する上で、移動の範囲、交通需要、担い手など地域の実情を踏まえ、適切な交通モードの役割分担と連携が重要であると考えられる。

✓多様な利用ニーズへの対応の必要性

美馬ふれあいバスでは高校通学、市営バスでは観光などのニーズも考慮した取組を行っている。地方創生を実現するためには、高校生まで地域で暮らせる環境の整備や観光振興といった視点から交通施策に取り組む必要があると考えられる。

✓継続的な見直しの必要性

美馬ふれあいバスは、継続的なサービスの見直しが利用者の増加につながっている。さらに、市営バス・穴吹-木屋平線延伸の試験運行など既存交通機関の見直しにも取り組んでいる。交通の利便性を高めるためには、既存の取組も利用者ニーズなどを踏まえて継続的に見直すことが重要であると考えられる。

○神山町の取組を踏まえた考察

✓小規模、低密度の需要に対応した交通サービスの必要性

神山町で運行する町営バスは、町の財政的負担が大きい割に利用者が少ない一方、タクシーチケットによる助成制度は利用者に概ね好評を得ており、利用者としてはドア to ドアのサービスへのニーズが高いと考えられる。

このため、神山町において地域交通を確保するための施策としては、路線定期型交通に替えて、予約が入った場合のみ運行し、固定の停留所ではなく利用者の自宅等まで送迎するデマンド型交通のようなサービスの可能性を検討する余地があると考えられる。

✓サテライトオフィスや多様な滞在形態の利用者に対応したカーシェアリングの必要性

サテライトオフィスのカーシェアリングの運用は、現在 NPO 法人により行われているが、今後サテライトオフィス開設企業が増加した場合には円滑な運用が困難になることも考えられる。このため、徳島県、NPO 法人、サテライトオフィス進出企業の役割分担を明確にしたうえで、カーシェアのシステムや運用方法を確立するための検討が必要になる可能性もある。

また、移住希望者や観光客等については、短期的に利用可能で移動の自由度が高いカーシェアリングへのニーズは高いと考えられることから、今後、多様な滞在形態の利用者の足として利用可能なカーシェアリングの可能性を検討する余地もあると考えられる。